

第1回で議論されたポイントと第2回で議論するポイント

第1回部会ふりかえり

- 新潟市農業構想について
 - ・新潟市農業構想の趣旨、位置づけの確認
 - ・農業構想策定部会の進め方（スケジュール）の確認

- 現農業構想の達成状況の評価報告

- 意見
 - ・「多面的機能支払交付金のフル活用」を盛り込むべき。多面的組織の広域協定化により事務負担軽減と集落を越えた活動によって、地域農業の維持に貢献。（吉川部会長）

 - ・現構想は基盤整備や消費者へのアプローチが弱い。新構想では弱みの強化か、引き続き生産重視か、大きな流れを示す必要。また第2回部会には、推移から推測した農家数など8年後を考えるための基礎資料があるとよい。（青山委員）

 - ・農業に関心を持ってもらい、農業と関係する人を増やすことが重要。農業サポーターについて、参加側の「地域農業を支えたい」気持ちが汲み取れていないのではないか。人手不足農家への一般市民参加型農業サポーターがあるとよい。堆肥を使った栽培について、地域にあった堆肥や品質管理など、生産における問題点や対応策の情報を知りたい。（堀委員）

 - ・堆肥にかかる情報の電子化による資源の利活用、SDGsを同時に満たせるのでは。環境と農業の両立において農家に環境配慮を押し付けるのではなく、いかにインセンティブを付けるかが重要。（吉川部会長）

 - ・米の価格下落に伴い離農が進行。生産基盤が比較的脆弱な新潟市は受け手少なく農地集約は課題。今後どういう人が農業を担っていくべきか現在の農業構想では見えない。既に活躍している方など見える化必要。所得を得ながら、若い担い手が活発に活動している姿をどう描くかを議論したい。（渡部委員）

 - ・県の園芸振興基本戦略と新潟市農業構想の位置づけは如何。また新潟市の銘製品の取り組み、銘製品の掘り起こし、PRについて考えていただきたい。（大野委員）

 - ・産業政策としての農業の維持、利益を出せる経営にすることが最優先。それから環境など色々な検討を進めるべき。以前はニューフードバレーということで農産

物を加工して付加価値を付けてという考えがあったが、現構想に記載がなく心配。米単体で売るのは限界。米粉などへの加工が課題。多面的機能支払交付金など、地域が維持できるやり方、農業が維持できるよう、農業が利益を出していけるような経営であることが最優先。(荒木委員)

- ・本市はなし、もも、ぶどうなどの果樹の産地。近年は単価高で金額がかさんでいるように見えるが、実際は面積も生産者数も年々減少しており、危機的状況である。作業ピーク時の労働力確保については、農業者とアルバイトをつなげるマッチングアプリがある。農家からも好評。アプリを通して農業に関わる人も多かったという見方も。(神林委員)
- ・花に関する記載が少ない。単価の跳ね上がりなどで全体金額は昨年並みだが、天候や離農により厳しい状況。ガーデニング用の球根付きチューリップを出荷したところ好評。(玉木委員)
- ・構想はまんべんなく網羅されているが、魂がこもっていない感じ。基礎自治体の役割はとて大きく農業の活性化に影響。基礎自治体がいかに魂を入れていくか、委員としてはそのお手伝いできればと思う。(吉川部会長)

第2回部会で議論するポイント

○新潟市の農業を取り巻く状況の確認

○次期農業構想の検討

- ・新潟市総合計画（素案）の確認
- ・章の構成案について
- ・将来像案について
- ・実現方策案（施策案）について、他に盛り込むべき点はないか